

開催日：2015年10月8日(木)13:00～16:30

場 所：TKP 京都四条烏丸カンファレンスセンター カンファレンスルーム 2B

京都府京都市下京区釘隠町 247 コーエーレオ

主催：森林 GIS フォーラム 後援：森林総合研究所 男女共同参画室

《プログラム》

■ 受付 13:00～

■ 【シンポジウム】 13:30～16:30

●13:30 開会のあいさつ 鹿又秀聡(森林総合研究所)

●13:35 司会：宮本麻子(森林総合研究所)

【講演】

大萱直花(一般社団法人日本森林技術協会)

「女性技術者として、長く、楽しく、働こう」

澤野麻利江(パシフィックコンサルタンツ株式会社)

「仕事と子育て～PCKK での取り組みとこれから～」

緒方万貴(マルマタ林業株式会社)

「林業での女性のキャリア～出産育児を通じて～」

上村佳奈(信州大学 山岳科学研究所)

「大学における GIS 教育：日本と米国の事例」

長島啓子(京都府立大学)

「女性支援から男性支援へ」

●15:45 司会：宮本麻子(森林総合研究所)

【パネルディスカッション】

●16:25 講評・閉会宣言

※本シンポジウムの講演資料等は森林 GIS のウェブサイト(<http://fgis.jp/>)に掲載します。

女性技術者として、長く、楽しく、働こう

一般社団法人日本森林技術協会 大萱直花

平成 10 年に入社した当時は、職場で 4 人目の女性技術者でした。いつしか先輩女性は皆退職し、一番の古株となってしまいましたが、後輩女性は 7 人にもなりました。この一年は後輩達の出産ラッシュで、3 人が育休を取得しました。

ママ技術者から聞いたことも含めて、以下のような話をいたします。

- ・ 男性並みに働くのではなく、女性としての働き方とは？
- ・ GIS 操作は育休あけの働き方にも向いている
- ・ 女性らしく仕事を進めるための小ワザ

とあるお偉いさんから「どうして女性には組織への帰属意識がないの？」質問されたことがあります。結婚か仕事か、出産か仕事か、女性の人生は二者択一になりがちです。両立が偉いね、大変だね、ではなく、当たり前にならない限り、組織より自分の人生が大事です。女性にも組織への帰属意識を持って欲しいならば、一本道の上に仕事と子育てが並ぶような、仕組みづくりが必要だと思います。

女性としての働き方とは、自分でも未だ結論は出ておらず大きな課題ですが、皆さんが考えるきっかけとなれば幸いです。

仕事と子育て～PCKK での取り組みとこれから～

パシフィックコンサルタンツ株式会社 澤野麻利江

私はパシフィックコンサルタンツ株式会社（PCKK）に入社してから約 10 年になります。入社 1 年目より都道府県向け森林 GIS の開発に関わり、現在まで続いています。その間産休・育休を 3 回取得し、現在は 3 人の息子の子育てをしながら勤務を行う毎日です。

私が入社した頃は、当社全体の子育て支援への意識は高いとは言い難い状況でしたが、第一子を出産して復職半年後に社内でワークライフバランスの講演会が開催されたことを契機として、仕事と家庭の両立支援の取り組みが始まり、社内の意識が大きく変化しました。

さらに現在は、子育てという事情に限らず多様な背景を持つ社員を増やして伸ばす、ダイバーシティ&インクルージョンを推進する専門部門も社内にも設置されています。

今回は、その当社の意識風土の変化と、私たちが仕事と家庭の両立を目指して実際に行っていることの事例を示した上で、今後目指す方向をご紹介します。

林業での女性のキャリア～出産育児を通じて～

マルマタ林業株式会社 緒方万貴

初めまして緒方万貴です。マルマタ林業は1,300haの山林を管理する会社で働いています。職場での女性は社長（母）と私の2人です。林業に関わり10年目です。現在、夫と3人の子供がいます。夫は現場で伐採搬出をしています。仕事内容は森林経営計画の作成・修正、計画された森林の調査・測量・選木、伐採搬出する人と打ち合わせ、その森林から搬出される丸太等の精算。その他書類作成を行っています。

GISは主に現場確認の資料として、現場終了後の測量図面と比較する資料として、周辺の森林・道の状態を確認する資料として使っています。現場終了後の面積の大幅な変更があった場合には、GISデータ変更等も行っています。帰ってきた時には紙図面での作業だったので、図面の細かい変更がしやすくなったと感じています。反面、現場の情報を正確に伝える緊張感が減ってきたのではないかと感じています。今後、GISなら単木の管理ができるのではと期待を抱いています。

GIS以外で必要と感じているスキルとしては、コミュニケーション能力だと感じています。木は1人では動かさませんので、円滑に事業を進める為に多くの人が係る事業になるからです。

大学における GIS 教育：日本と米国の事例

信州大学山岳科学研究所 上村佳奈

GISは、情報を取得、蓄積、解析、地図として表示できる統合型システムとして、森林学、経済学、環境学など様々な分野で利用されている。しかしGISは、データの準備、解析手順、出力方法などを十分に学ばないと、誤った結果や不十分な情報を提示する可能性がある。そのため大学でのGIS教育が重要になるが、日本の森林分野におけるGIS教育に費やす時間（講義数）は、米国の大学よりも圧倒的に少ない。講演者は米国の大学院でGISを学び、現在はGISを使った空間モデリングによる森林風害研究のほか、大学などでGISを教えている。それらの経験を踏まえ、米国のGIS教育と比較しながら、日本の森林分野におけるGIS教育について考えたい。

森林計画分野を専門とし、講義と学生の研究指導に当たっている。主な研究としては GIS による林業のコスト分析や LiDAR 等の解析、森林ゾーニング、シカの食害による広葉樹林の植生回復の可能性など多岐にわたっている。このため、現地調査による出張も多い。

一方、私生活では 3 人の娘がおり、子供の送迎、小学校の PTA 活動など家事のほとんどを担っている。帰宅時間が決定した限られた時間の中、各々の学生の細やかな指導による着実な研究の実施を心がけている。と共に、京都府立大学の「研究支援者制度」を利用し、学生 1 名に週 11 時間ほど GIS のデータ入力や解析などの研究の補助作業をお願いしている。出張の際は、夫は子供の送迎のために半休をとって対応をしているのが現状である。

育児と仕事の両立で欠かせないスキルは「計画力」「集中力」「実行力」、そして何よりも「精神力」である。限られた時間に、いつまでに何をするかを「計画」、高い「集中力」で確実に「実行」する。帰宅しても子育てでストレスの多い時間を過ごすため、ほっと一息できる時間はほとんどない。このため、「精神力」が最も大事となる。もちろん、パートナーの理解と協力は不可欠である。そのためには男性の育児参加を支援する制度が重要と言える。企業の男性の家事・育児に対する理解がもっと広がることで、精神的苦痛により仕事の継続をあきらめる女性が減少するのではないかと考える。

森林 GIS フォーラムについて

設立の趣旨

森林は従来の木材生産以外にも、生活環境や自然保護といった「地球的規模でかつ多面的な環境問題」といった面でも多くの人々の注目を浴びるようになってきました。これからの森林管理では、経営、治山、防災、環境などの森林に関わる各業務において、さまざまな局面に対応できる情報システムの支援が求められています。森林 GIS フォーラムでは森林関連の情報システムを構築する上で強力な手法となる森林 GIS に焦点をあて、その活用から森林のあるべき姿を考えたいと思っておりますが、森林 GIS の普及に際しては、次の二つの問題点が指摘されています。

- (1) 現在の森林管理の情報制度をコンピュータ化しやすいように見直す必要がある。
- (2) 森林専門家の中に、情報処理技術に習熟した人材が不足している。

これらの問題を解決するためには、森林管理に習熟した経営者や行政官と、情報処理に優れた専門家との相互交流であり、そのため、森林経営者、森林行政官、GIS の専門家、そして森林研究者の交流の場として森林 GIS フォーラムを設立しました。

年間の活動内容

- ・4～5月 運営委員会を開催し、年間の活動方針を決定
- ・9月～11月 各地域にて地域シンポジウムを開催
- ・2月 東京大学にて東京シンポジウムを開催
- ・3月～4月 日本森林学会大会にて学生シンポジウムを開催
- ・その他、広報誌としてニュースレターを年2回程度発行

一般会員の登録について

個人が加入できる一般会員の登録についてはお名前と所属、E-Mail アドレスを事務局 (nyuukai@fgis.jp)にお知らせください。入会費、年会費は無料です。一般会員には、イベントや会報の発行案内をメールで送ります。ゆるやかな会員制度ですが、その分、気軽に利用していただければと思います。

賛助会員について

賛助会員は森林 GIS フォーラムの目的に賛同し、その事業に協力しようとする法人または団体が加入することができます(ただし、日本国内に事業所を有すること)。2015年10月現在の賛助会員は以下のとおりです。

- ・アジア航測株式会社
- ・国土地図株式会社
- ・株式会社 ギョロマン
- ・株式会社サテライトイメージマーケティング
- ・住友林業株式会社
- ・一般社団法人日本森林技術協会
- ・パシフィックコンサルタンツ株式会社
- ・株式会社パスコ
- ・北海道地図株式会社 (アイウエオ順で掲載しています)。

【森林 GIS フォーラムミニシンポジウム in 京都】

森林 GIS フォーラムの組織

会長、副会長のもとに、運営委員会が設けられています。運営委員は官学の代表からなります。フォーラムの活動方針や内容は、会長、副会長、事務局、そして賛助会員の出席のもと、運営委員会で討議され決定されております。森林 GIS フォーラムの運営に携わる役員については以下のとおりです。

会長	野田 巖	国際農林水産業研究センター(森林総研)
副会長	粟屋 善雄	岐阜大学
事務局長	鹿又 秀聡	森林総合研究所
事務局(会計)	宮本 麻子	森林総合研究所
会計監査	三浦直子	東京大学

地区委員

北海道地区	菅野 正人	北海道立総合研究機構林業試験場道南支場
東北地区	小谷 英司	森林総合研究所東北支所
関東地区	横山 直人	林野庁計画課
関東地区	中島 徹	東京大学
関東地区	高橋 正義	森林総合研究所
中部地区	斎藤 仁志	信州大学
関西地区	長島 啓子	京都府立大学
中国地区	米 康充	島根大学
四国地区	松岡 真如	高知大学
九州地区	加治佐 剛	鹿児島大学